

新庄市議会 行政視察報告書

会派又は議員名 市民・公明クラブ

【全体的事項】

1. 視察日程 平成28年 1月15日（金）～16日（土）
2. 調査事項（視察先）
 - （1）地方創生の拠点を目指す商業施設（東京都台東区）
 - （2）国民健康保険制度について（東京都千代田区）
 - （3）物品販売の状況について（東京都中央区）
3. 視察参加議員
小野周一 下山准一 高橋富美子 佐藤卓也 山科正仁

【具体的事項】

調査事項（1）

商業施設 まるごとにつぼん（東京都台東区）

（視察事項）

「Event space おすすめふるさと」「おすすめふるさとサロン」
「しごと・暮らしコンシェルジュ」「ふるさと納税コンシェルジュ」について

■視察日時 平成28年 1月15日（金）
午前11時15分 ～午後2時50分

■所 感

全国各地の魅力を一挙に体験できる商業施設「まるごとにつぼん」が平成27年12月17日にオープンしました。ふるさと納税の初の常設コーナーや観光相談口を設置し、地元以外では手に入らない食材や工芸品を揃え、「地方創生の拠点」を目指しております。1階では「につぼん食市場 楽市」として地方色豊かな旬の食材を集め、目と舌で楽しむここにしかない品揃えをしております。2階では「暮らしの道具街 和来」として伝統技術や風土が息づく地方発の生活用品が並んでおります。3階では「たいけん広場 浅草につぼん区」として全国の市町村が集まる「おすすめふるさと」を



はじめ、地方の魅力が存分に味わえる憩いの空間を作っております。4階では「ふるさと食堂街 縁道」として風土に根付いた地方のご馳走を集め、にっぽんの匂と下町風景を堪能できるレストランフロアになっております。

特に3階の「Event space おすすめふるさと」では最新技術を駆使した空間演出と全国から集まった市町村のPRスペースとし、まだ知られていない選りすぐりの商品の展示や販売を行っており、17自治体があるブースを設ける中、山形県内では村山市が出展しておりました。また日本初のふるさと納税の実店舗となる「ふるさと納税コンシェルジュ」では、PCやタブレットを使用して、その場でふるさと納税を申し込める対面サービスを提供し、和のテイストの制服を着用した専門スタッフが、ふるさと納税の制度や「さとふる」経由でのふるさと納税の申し込み方法などについて、きめ細やかにわかりやすく説明しております。地域のしごと・くらし相談口として要望に合わせた情報を提供し、U・I・Jターンを紹介する「しごと・くらしコンシェルジュ」やふるさとの観光情報を簡単に検索できる「ふるさと観光プラン」、地域独自の食材や調味料を幅広く使用し様々な郷土料理のレシピや食文化を学ぶ料理教室として「おいしいのつくりかた」全国の様々な文化や生活スタイルを楽しみながら体験できる「みんなでたいけん」など毎日楽しめるようなフロアになっておりました。

施設では年間来場者数を372万人と見込んでおり、腕試しの場として活用してもらえよう施設側で初期費用・運営費を負担するため、新庄市においても「まるごと にっぽん」に出展し、市のPRや物産品の販売に力を注いでいく必要があると感じます。また、出展することで発信力を高めて行き、店舗同士や自治体同士が連携することで新たなきっかけが生まれ、相乗効果が期待できるのでないかと感じました。

調査事項（2）

国民健康保険について（東京都千代田区 厚生労働省）

（視察事項）

国民健康保険制度の見直しについて

■視察日時 平成28年 1月15日（金）
午後 3時30分 ～ 5時00分

■所 感

新庄市では国民健康保険事業特別会計が27年度予算で45億6千万円（前年度9.9%増）となっており財政を圧迫する一因となっております。そのため新庄市や他自治体が抱える構想的課題と社会保障制度改革プログラム法における対応と方向性等を伺うため厚生労働省保険局国民健康課 唐澤剛局長、介護課長 榎本健太郎課長から講義していただきました。国保が抱える構造的な課題として①

年齢構成としては年齢構成が高く、医療費水準が高いです。②財政基盤として所得水準が低く、保険料負担が重いため、保険料の収納率の低下し一般会計の繰り入れが必要になり、③市町村間で格差が生じております。そのために財政支援の拡充や財政運営を都道府県が担うことを基本にしつつ、市町村と適切な役割分担を検討していくこととなります。特に新庄においては、平成30年から実施される保険者努力支援制度を活用していかなければなりません。この制度は、医療費の適正化に向けた取組等に対する支援のことで毎年700億円から800億円程度が交付される予定です。指標では被保険者の健康の保持増進に努力としての「特定検診・特定保険指導等の実地状況」や医療の効果的な提供の推進に対する努力として「後発医薬品資料割合」、国保が抱える課題に対する努力として「収納率の状況」があり、市としても積極的に取り組む必要があると感じました。また、健康づくりへの取組として広島県呉市の糖尿病性腎症重症化予防や脳卒中再発予防の取り組みや埼玉県糖尿病重症化予防対策を参考にし生活機能の維持や医療費抑制に向けて調査研究していきたいと思っております。

調査事項（3）

おいしい山形プラザ（東京都中央区 銀座アンテナショップ）
むらからまちから館 等（東京都千代田区周辺）

（視察事項）

物品販売の状況について

■視察日時 平成28年 1月16日（土）
午前10時00分 ～ 午後 2時30分

■所 感

新庄市の物品販売の状況や山形県アンテナショップ内で最上郡の物品がどのように販売されているか視察を行いました。県のアンテナショップの目的は、県や県産品のイメージアップやブランド力の向上と、首都圏情報のフィールドバックや商品等のブラッシュアップにより、県の産業の活性化を図ることとしております。機能としては「物産販売店」「飲食店」「観光コーナー」を設け、多くの人々が興味を持つ、「食」を前面に出した店づくりを基本方針としております。平成27年11月現在においてアンテナショップにおける県内商品の割合は村山地域39.0%、置賜地域27.4%、庄内地域26.8%、最上地域においては6.8%とダントツに低く、もっと商品の出品を出していただけるような取り組みや仕掛け作りを強化していかなければ今の状況を打開することは難しく、価値を高めるための循環構造の構築には乗っていけないと感じます。また売上人気商品としては、菓子や漬物が上位を占めており、これからは従来との商品の差別化を図るため、おいしさを「見た目」に変えるためのパッケージデザインをもっと工夫すべきと感じました。また、観光コーナーでは、各イベ

ントの最上地域のちらしが置かれておらず、冬ならば各雪祭りの情報を把握し、ポスターやチラシを置き、首都圏の方に発信する努力も必要と感じもっとアンテナショップを活用すべきと思いました。各地のアンテナショップにも足を運びましたが、店によって入りやすい店と入りにくい店があり、入っていただきたい雰囲気作りをもっとしていかなければならないと、改めて思いました。